

中央公民館運営審議会会議概要

中央公民館
18 枚中 1 枚目

実施年月日	第 30 期 第 3 回 運営審議会			平成 30 年 7 月 6 日実施
会 場	中央公民館 401 会議室		傍聴人	0 人
出席者	委員		井上経久、井部真由美、岩崎保之、笠原直美、 小林淳一、塩田美幸、田代正孝、西脇玉子 祝健一郎、本間修一、山田久美子、渡辺和美	
	事務局	中央公民館	浅間直美、竹田由里子、土沼裕子、友坂直宏、 玉木一彦	
		鳥屋野地区公民館	小栗 敦	
		東地区公民館	村山恭子	
		関屋地区公民館	小松氏盛	
議題等	<p>議題・報告</p> <p>(1) 平成 30 年度公民館予算について</p> <p>(2) 新潟市公民館事業について</p> <p>ア 事業の基本方針</p> <p>イ 平成 29 年度事業報告及び平成 30 年度事業計画</p> <p>(3) 公民館に若者を取り込むために</p>			
審議された議題及び報告について以下に記載する。				
浅間中央公民館長あいさつ、岩崎議長あいさつ				
(1) 平成 30 年度公民館予算について				
中央 土沼管理担当	資料 1 により、平成 30 年度公民館予算（中央区分）を説明。			
岩崎議長	<p>ここまでのご説明に対して、ご質問、ご意見を取りまとめてちょうだいいたします。いかがでしょうか。単純な質問をよろしいですか。</p> <p>子育て学習出前講座とおはよう朝ごはんが生涯学習のほうから公民館に移管になったという背景は何かありますか。</p>			
中央 友坂事業担当	<p>基本的には、生涯学習センターのほうでは、全市的な事業ということで、モデル的な事業をやっている部署になります。それが、数年、事業を実施した中で、ある程度の方向性が見えてきたことと、また、生涯学習センターでやっているときも、各地区公民館が主体となって動いていたので、公民館に移管しました。</p>			
(2) 新潟市公民館事業について				
中央 浅間館長	資料 2 により、平成 30 年度公民館事業の基本方針を説明。			

中央公民館運営審議会会議概要

中央公民館
18 枚中 2 枚目

<p>中央 友坂事業担当</p>	<p>資料 3 により、中央公民館分の平成 29 年度事業報告及び平成 30 年度事業計画を説明。</p>
<p>岩崎議長</p>	<p>各館ごとに区切りながらご質問とご意見を取り混ぜて承りたいと思います。 中央公民館についていかがでしょうか。どこからでもご発言ください。よろしいですか。事業を廃止というのがありまして、最初は利用者がいなくなったのでということで心配したのですけれども、そうではなくてしっかり自主グループを作って、持続的に活動するようになったので目標達成。それゆえに廃止ということで、大変よい結果になってよかったなと思いながら伺っておりました。よろしいですか。では、また後で思いつくことがありましたら、ご発言いただきたいと思います。その次、鳥屋野地区公民館お願いします。</p>
<p>鳥屋野 小栗館長</p>	<p>資料 3 により、鳥屋野地区公民館分の平成 29 年度事業報告及び平成 30 年度事業計画を説明。</p>
<p>岩崎議長</p>	<p>鳥屋野地区公民館からの報告に関しまして、ご質問、ご意見を取りまとめてちょうだいいたします。いかがでしょうか。私から 1 点よろしいですか。1 枚目の表面、平成 29 年度の事業実施報告の 27 番、平昌冬季五輪が事業評価としては A なのですが、延べ人数を見ると 9 人ということで、別に人数イコールどうのこうのということでは、決してないのですけれども、このあたりもう少し補足していただけるとありがたいです。</p>
<p>鳥屋野 小栗館長</p>	<p>先ほど、平成 30 年度でお話をしました、東京オリンピック・パラリンピック機運醸成を平成 30 年度から実施しようと。その前段として、平昌オリンピックが開かれるタイミングで、たまたま韓国領事館の方から来ていただくことができましたので、韓国のことについて学んでみましようということで実施をしました。やはり平日の日中ですので、なかなかご参加をいただける人数は多くないのですが、通常、こういうものをやると年齢の高い方がおいでなのですが、比較的若い方も、やはり諸外国を知りたいという意欲があり、参加をしていただき、プレとして実施をして、平成 30 年度につなげました。</p>
<p>東地区 村山館長</p>	<p>資料 3 により、東地区公民館分の平成 29 年度事業報告及び平成 30 年度事業計画を説明。</p>
<p>関屋地区</p>	<p>資料 3 により、関屋地区公民館分の平成 29 年度事業報告及び平成 30 年度事業</p>

小松館長	計画を説明。
岩崎議長	<p>今ほどの関屋地区公民館の報告について、私から一つよろしいですか。今年度からの着任ということで、ご存じの中で教えていただければと思います。先ほどのご報告の中で、事業番号 9 番、子育てネットまつぼっくりの利用者が 158 人、前年度比で増えたということで、潜在的ニーズがあるのではないかというご趣旨のご発言でしたけれども、もう少し具体的に人気の理由を教えてくださいか。</p>
関屋地区 小松館長	<p>担当に確認したところ、PRの方法を少し手広くしたとっておりました。民生委員の皆さんなどを通じた中でのPRが周知につながって、参加者が増えたのではないかと思います。今までも周知はしていたわけですが、PR先を広げたことにより、子供たちが集まるということは、やはり望まれるものが地域にはあったのかなという感じを受けているところです。</p>
岩崎議長	<p>子供たちが交流できるような場を求めているということですか。</p>
関屋地区 小松館長	<p>同様の事業を市長部局でもやっているのですが、公民館という中でやることに對して来やすさがあるかどうかは、私もまだ分からないところもあるのですが、来ていただけるということは、何かマッチングしたものがあつたのかと。具体的なところが分からないところです。</p>
岩崎議長	<p>あるいはその中身に何かおもしろいものがあつたのかもしれないですけども、そこまでは存じあげないと。ありがとうございます。ほかいかがでしょうか。各地区の公民館全部取りまとめて、そういえばというようなものも含めまして、ぜひご発言いただければと思います。利用人数の多いところを串刺して眺めてみると、例えば、今のように子育てに関するようなこと、あるいは子供同士の交流に関するようなことを扱った講座は、人数が多く集まっているようですし、企画委員が企画をされている講座にも、比較的多くの利用者が見込めているようであります。あるいはテーマ設定自体のおもしろさです。それがものすごく高度なものであつたにせよ、探求するテーマがおもしろいと利用者も集まってくるという傾向が各地区公民館ともに見られるのではないかと思いますながらお話を伺っておりましたが、いかがでしょうか。よろしいですか。ありがとうございます。それでは、議題の(2)新潟市公民館事業についての審議を一旦、閉じさせていただきます。また、後ほどございましたら、ぜひご発言ください。</p> <p>続いて、(3)です。今のような話しにも連動してまいります、公民館に若</p>

中央公民館運営審議会会議概要

中央公民館
18 枚中 4 枚目

	<p>者を取り込むためにということで、ご提案をお願いできればと思います。よろしくどうぞお願いします。</p>
<p>(3) 公民館に若者を取り込むために</p>	
<p>中央 浅間館長</p>	<p>(当日配布資料「昨年度の振り返り～公民館のあり方について～」により説明。) 前回のこの審議会の中で、受益者負担や公民館の利用の拡大の方法など、いろいろ公民館を取り巻く状況や課題をお示しし、皆様から貴重なご意見をいただきました。大変ありがとうございました。皆様からのご意見、そして新潟市全体の方針というものを踏まえて、今度は職員がこういった課題について調査、研究をしていきます。最初のあいさつでも申し上げたのですが、公民館のあり方というものを考えていきますと、すごく縮小していくような方向にとらわれてしまうのですが、決してそんなことはなくて、地域が主体でまちづくりを進めていくための人づくりというのは、実は今まで以上に求められています。そして人づくりを行っていくために、公民館をあまり今までにご利用いただかなかった、新しい人からもご利用いただいて、人材を発掘して育てていかなければならないというのが私どもの課題でございます。これは社会教育というか、公民館だけの課題ではなくて、各行政の分野すべてにおいて共通しているものでございます。公民館の場合、新しい人というと、例えば、働いている青年層の方とか、父親とか、学生や民間企業の方などが浮かぶのですけれども、今回は高校生を取り込むための取組みについてご意見をいただければと思っています。以前の会議でも、公民館に子供を呼び込む方法をご意見いただいていたところでございますが、改めて中央公民館の利用の状況や事業の様子を共有させていただき、これからどのように取り組んでいったらいいのか皆様からぜひとも忌憚のないご意見をいただければと思っています。どうぞよろしく願いいたします。それでは、事業係長から説明させていただきます。</p>
<p>中央 友坂事業担当</p>	<p>(当日配布資料「利用者の状況（中央公民館）」により説明。) 1 ページ目が、利用者の状況ということで、中央公民館分になります。真ん中のグラフは、世代別にまとめたものになります。水色のところが高齢者 65 歳以上の利用者。紫色が成人 26 歳から 64 歳。緑色の青年が 19 歳から 25 歳、赤色の少年が 6 歳から 18 歳になり、過去 3 か年、平成 29 年度、平成 28 年度、平成 27 年度分です。ご覧のとおり、高齢者、成人層の利用がほとんどで、成人、高齢者層を合わせますと、利用者の 9 割くらいになります。 裏面は、中央公民館の対象者別の事業の集計になっています。ここに、総合とありますが、こちらは子供でも、成人でも、青年でも、高齢者でも、どなたでも参加していいですよというジャンルですので、要は地域のイベントだったり、コミュニティ協議会と協働して行う世代間交流の行事で総合というような</p>

位置づけにしています。

このグラフを見ますと、緑色の部分で成人と総合が多い形になっていますが、成人が多いというのは、家庭教育学級など保護者向けの講座を多く実施している関係もあり、この辺の事業数が増えています。おそらく中央公民館に限らず、ほかの地区館、ほかの区においても、このグラフの様子は、そんなに変わらないと思っています。地域によっては、紫色の高齢者の部分が非常に高くなったり、総合が高くなったり、子ども体験とか、子供の体験事業に力を入れているようなところは、少年の部分が多かたりという誤差はありますけれども、いかんせん赤色の青年の部分の割合が低いというのは全市的に見ても、同じような状況だと思っています。少年を合わせても、全体の 1 割もいかないくらいの事業数、利用者という状況が見てとれます。そんな中でも、今後、公民館の利用者を増やしていきたい、いかなければいけないというのが我々の課題の一つであります。もちろん、人口が先細りしていく状況の中で、利用者が減るのは致し方ない部分があるとは思いますが、今の現状、高齢者、成人の方々の利用者が大半を占めている中で、今後、そのまま推移していったときに、今の若者たちが公民館を知らないとか、利用したときがないというような状況は避けたいなと考えております。

実は、平成 28 年度に、中央公民館で婚活セミナー、婚活事業を実施した際に参加者に対してアンケートを取っています。参加者の内、63 パーセントの方々が、公民館を利用したことがないと回答していました。その他、公民館にどんなイメージをお持ちですかというようなことをお聞きしております。回答では、「お年寄りの方がお話をする場所」「お年寄りしかいない」もしくは「子供とおじいちゃん、おばあちゃんが集う所」というものがありました。公民館は、高齢の方が使っているというイメージをお持ちの方が多くおられるようでした。その他、「安心感がある」「参加しやすいイベントが多くある」「市民の憩いの場」「地域に身近な場所」というような回答もありました。

公民館での実施事業ですが、中央区では、中央公民館と鳥屋野地区公民館で若者を対象にした事業、毎年、ユースセミナーというものを開催しております。実際に参加者がその後、公民館を利用しているかどうかといった部分については、先ほどのグラフのところで利用者の状況を見ていただければ分かると思いますが、青年層の公民館利用にはつながっていないのが現状です。それを受けまして、中央公民館では、昨年度から少しでも公民館を知ってもらうためのきっかけづくりを目的として、「クロスパルちょっと寄り道シリーズ」というものを昨年度、3 回開催しております。若者が集まりそうな講座、コーヒーの入れ方講座であったり、夏場に浴衣の着つけ体験とか、簡単にできるお弁当づくりといったところで、20 代から 30 代の若者を集めて講座をしました。しかし、その後、我々も努力して常にといいですか、なるべく連絡を取るようになら

中央公民館運営審議会会議概要

中央公民館
18 枚中 6 枚目

	<p>まして、企画委員になってもらったり、職員と若者と情報交換会を設けてニーズを把握したりというような活動を現在行っています。その後、自主サークルとか、グループ化したところはまだありません。過去にユースセミナー参加者で自主グループ化したけれども、その後の活動につながっていないというのが現状です。もちろん、青年層だけではなくて、少年、高校生だったり、専門学校生などの若年層にも公民館を知ってもらって、公民館を利用してもらいたいという我々の強い願いがございます。ですから若者、高校生、専門学校生、青年層、働いている若い方々を公民館に売り込むために、こういったことをすれば来てもらえるのだろう、継続して利用してもらうために皆様からアイデアや、ご意見をいただければと思っているところでございます。よろしく願いいたします。</p>
<p>岩崎議長</p>	<p>添付資料に五十嵐前館長がお書きになった、若者をどうやって呼び込むかという切実な願いや思い、そしてK o m a c h i と連携した婚活がうまくいったというお手柄の報告が載っていますけれども、突然で申し訳ないのですが、各地区の公民館のほうから今の話に連動して若者。特に高校生を中心とした若者の利用状況ですとか、あるいはこういった対策を取っているのだけれども、現状こうでというご報告を簡単でかまわないのでいただけるとありがたいです。中央公民館は今のようなお話の延長で何かありますか。</p>
<p>中央 友坂事業担当</p>	<p>中央公民館では、その他の子どもの居場所としてフリースペースを開催しています。一応、毎週土曜日、6階のエレベーターホールを開放して、小学生から中学生、高校生、専門学校生まで来ていただいて、勉強なり、ゲームなり、お友達としゃべったりと。毎月、第1土曜日には、軽運動室、体育館や音楽室を無料開放する事業をやっています。そこには、リピーターと言いますか、毎週来ているとか、小さいころ、中学生のときに来て勉強をされていて、高校生でまた来てくれている状況が見受けられます。</p>
<p>岩崎議長</p>	<p>特段、事業として、そこを対象としたものというのは、今年度は。</p>
<p>中央 友坂事業担当</p>	<p>高校生などの対象の事業の予定はありません。</p>
<p>岩崎議長</p>	<p>鳥屋野地区公民館はいかがですか。</p>
<p>鳥屋野地区</p>	<p>うちも特に高校生、あるいは働いて間もなくの方々向けの講座というのは予</p>

中央公民館運営審議会会議概要

中央公民館
18 枚中 7 枚目

<p>小栗館長</p>	<p>定していません。平成 30 年度実施の事業については、ユースセミナーというものも設けているのですが、30～40 代をターゲットに、時間の管理術みたいなものをやろうかとは思っております。ネガティブな考え方ですが、なかなか高校生は忙しいので、中央公民館と同じようにフリースペースがあったり、学習室ということで部屋を夕方開放して、そこでどうぞ勉強してくださいというスペースがありますので、試験の前になったり、あるいは受験のシーズンの時期になったりすると、高校生が勉強に来ることはありますが、そこで高校生をねらって、大学生をねらってという講座自体は企画していません。</p>
<p>岩崎議長</p>	<p>東地区は。</p>
<p>東地区 村山館長</p>	<p>東地区公民館でも、フリースペースと学習室は毎日開催しております、フリースペースに常連の高校生の男の子が一人、毎日のように来てくれる子はいませんが、それ以上、広がっていないような状況です。学習室のほうも、ときどき、中学生、高校生も利用がありますが、それも年間を通して延べ人数で 30 人くらいなので、そんなに多くはない状況です。事業のほうで高校生対象の事業というのは、事業の計画はしておりません。昨年度はたまたまなのですけれども、南高校の書道部が、高校は改修か何かがあって部活動ができないといったときに、一時的にうちの館を借りてクラブ活動に利用したことはありましたが、その子たちが、場所が遠いということも、その後もちょくちょく来てくれるということは今のところないような状況です。</p>
<p>岩崎議長</p>	<p>関屋地区はいかがでしょうか。</p>
<p>関屋地区 小松館長</p>	<p>対象とした事業の計画はございません。ほかの皆さんがおっしゃったとおり、フリースペースで高校生が勉強に来ると。同じように試験の前などになると、講座室を、夏休み前になると講座室で勉強してもらおうということの施設の利用はございますけれども、事業としての取組みの予定はございません。</p>
<p>岩崎議長</p>	<p>そうするとフリースペースに高校生を中心とした若者をどう呼び込むかという側面もあるし、事業として高校生を中心とした若者にターゲットを絞れるのかどうかというような悩みもあるということなのだと思いますけれども、このあたりいかがですか。具体的にこれだという決定打はなかなかないと思うのですけれども、委員各位からご発言いただければと思います。</p> <p>本間校長先生、突然なのですが、近い世代を教えてくださいのお立場から、もしご発言いただけるとありがたいです。</p>

中央公民館運営審議会会議概要

中央公民館
18 枚中 8 枚目

<p>本間委員</p>	<p>公民館に若者を呼ぶ込む趣旨はわかるが、たいへん難しい。時間がない中学生や高校生、そして働いたばかりの人たち。その人たちを呼び込むことが必要なことなのか。また、新潟市はこういう状況なのだけれども、先進的な都道府県や都会ではこんな取組みをやって、こんな成果が上がっている。いや都会でも若者は離れていっているのだという状況などを紹介した上で、協議を深めたほうが良い。思い付きですが、試験前になると、公民館に勉強に子どもたちが来ます。例えば、勉強しに来る子どもたちのところにボランティアで元教員の先生方が面倒をみてくれる。公民館に行く勉強を教えてくれるというようなことが広まり、多くの子供たちが集まると思う。また、無料でジュースを飲むようにすれば、中学生も高校生も足を運ぶと思う。ファミリーレストランや喫茶店に行くよりは、こちらのほうがいいわけですね。あるいは、岩崎議長の青陵大学の学生に、どうやったら公民館に足を運ぶのかの話し合いを持ってもらいたい。その後、それをこちらに返してもらい、何が課題なのか、何を变えることが打開策になるのかの大きなヒントになると思う。とにかく何か一歩を踏み出さない限り、若者の来館者は増えない。最後に、勉強をしにくることや、フリースペースにくることによって若者を呼び込んだことにはならないと思う。まとまりませんが、このような感想を持ちました。</p>
<p>岩崎議長</p>	<p>友坂さん、今のあたりを含めていかがですか。他都市の様子ですとか、先日、社会教育主事の資格をお取りになったばかりということで、情報もいっぱいお持ちかと思えますけれども。</p>
<p>中央 友坂事業担当</p>	<p>確かに先進地の事例をお聞きすると、もちろん、高校生が主体となって、グループではないですけども、一グループの高校生が地域おこしだったり、地域づくりに貢献しようと率先して活動して地域おこしをしているところも、確かにあります。それだけではなくて、いろいろな若者のグループが立ち上がっていて、そのグループたちが率先して自主的に動き、地域の活性化や、高齢者支援、子育て支援に手を差し伸べて活動している事例はけっこうあります。</p>
<p>岩崎議長</p>	<p>公民館に行かないとできないみたいなものがあれば、インセンティブになるのでしょうかけれども、個人的なことで申し訳ないのですが、私は 30 年近く前、万代市民会館ができたばかりのときに 3 年間、あそこで職員をやった経験がありまして、青年の家の事業担当の職員だったのです。音楽練習室があるのです。団体登録すると、音楽練習室は、無料ではなかった記憶があるのですが、民間のスタジオから比べれば破格値で楽器なども借りられて、そこで高校生がバンド練習するのです。でも、バンド練習しても発表の場がないので、そうするとあそこは 6 階にホールがあるものですから、そこで発表できな</p>

中央公民館運営審議会会議概要

中央公民館
18 枚中 9 枚目

<p>本間委員</p>	<p>いかという話を持ってこられて、それであれば、それこそ企画委員になってもらって、みんなで若者の音楽会といますか、文化祭をやればいいのではないのといったら、いろいろなところに火が飛んで、じゃあ私たちもということで、高校生がだいぶがんばったという記憶があります。今から 30 年も前の話で、今の高校生は忙しいので難しいのかなという思いもないわけではないです。本間校長先生いかがですか。</p> <p>おそらく岩崎議長が若いときは、バンドというか、ギターも含めて結構そういうものが若者のファッションみたいになっていた。だから、そういううねりができていたと思う。今は、おそらくそれをやってもできないと思う。今、友坂さんが言ったように地域おこしのほうにいくか。学習スペースにいくのか。子どもたちが集まる仕組みづくりにいくのか。ただ単に若者を呼ぼうという、窓口を広げてやるのでは上手くない。中央公民館としては、ここに力を入れたい。今年のテーマは、若者に焦点をあてた「学習室」、「サークル活動」、「地域おこし」などといった 1 点に力を注いだほうが良いような気がします。</p>
<p>山田委員</p>	<p>テーマを絞ったほうが良いという点については私も同感です。以前勤務していた坂井輪地区公民館では音楽室を青少年の居場所として、子供たちに解放していました。そうすると、バンド活動をやっている子供たちが使う。発表の場がなかなかないらしいので、「クリスマスのコンサートでもやらないか」と声をかけました。利用団体がいくつもあるので、「みんなで相談してやらないか」と。おぼさんの頭としては、その団体の代表者が集まって打ち合わせの会議をやるのかと思ったら、そうではない。みんな LINE でチャチャッ。顔を寄せ集めて相談などしないのです。LINE で流して、「コンサートの名前はこれで」とか、「チラシはこれで」で、「決まりました」と。ちっとも顔を合わせなくても、あつという間にできてしまう。それを今、ふと思い出しまして、若者たちがグループ化するという形態って今あるのか疑問に思った次第です。</p> <p>それと、ターゲットを高校生に絞ったとする。それを取り込む方法が事業参加者を増やしたいということなのか、貸し館の利用者を増やしたいということなのか。それがよく分からなかったです。どういう利用形態を増やしていこうとするのだろうかということがよく分からなかったので、本間先生が言われたようにテーマを絞って、それに向けて対策を考えるということも方法かなと思います。</p>
<p>岩崎議長</p>	<p>とても大事なご指摘だと思います。関連していかがですか。</p>
<p>本間委員</p>	<p>もう一点。話していることが土台から崩れてしまうかもしれません。先ほど</p>

中央公民館運営審議会会議概要

中央公民館
18 枚中 10 枚目

岩崎議長	<p>少し言ったように、本日集まっているおじ様、おば様の委員で、若者を呼び込もうという話し合い、たいへん難しいここではないでしょうか。先ほど、少し話した青陵大の女子学生、新潟柳都中や寄居中や近隣の生徒会の子どもたち、高校生を含めて、年代別に若い人たちが集まって話し合いをしてもらう。最初からこの委員での話し合いは、非常に厳しいのではないかと思います。</p> <p>公運審に高校生にも来てもらう。おっしゃるように、同じ年代だけをねらってということもあるとは思いますが、今の若者たちはあまりそういう発想で動いていないと思うのです。プロジェクトがあったり、テーマがあったりすると、そこがおもしろいねと思って集まったら、たまたま若者も多いけれども、おじ様、おば様もいたりして、意外と多年齢、多世代がまとまって活動しているところに、割合乗ってくる高校生も多いような気が、私個人としてはしていたりもしますけれども。雁首そろえて年寄りが集まって相談してもよく分からないという本音も出てまいりましたが、浅間館長、コメントはありますか。</p>
中央 浅間館長	<p>すごくありがたいご意見。確かに顔を合わせて、私たちが考えるような、想像できるようなことで彼らはものを決めたり、一緒に活動したりしない。今は SNS ですから。そういう子供たちに集まれというのであれば、高校生だけ集めるというよりは、目的、プロジェクト、そこに彼らが興味を示すようなものを我々のほうで提示して、そこに少しでも若い人たちに集まってもらうような集め方も大変大事だなと、今、ご意見を伺っていて思ったところです。そういうニーズは、大学生から聞いたり、あるいフリースペースを使っているような中学生からも聞けるのかなと、考えていたところでした。ありがとうございます。</p>
本間委員	<p>あわせて、例えば、柳都中学校だったら、今年、新採用の先生が 2 人来ているのですが、年齢が 22 とか、23 とか、24 とか、25 とか。そういう若い先生、大人から聞いてもいいと思うのだけれども、私たちが提案してもだめだと思うのです。やはりぐっと若い人たちが何に興味を持っているかということが分からないとだめだと思うので、だれか知り合いでもいいのですが、少し集まっていたら、好きに話せやでもいいのだけれども、それからだんだん集約していけば、固めていけばいいのではないかと思います。それをもう一回、ここで出してもらおうと、多分、私たちは経験があるので、いい方法が出てくるのではないかと。あわせて先進県というか、その様子が分かるのもっといいのかなと。何も無いのにさあ出せというのは、やはり少し厳しいかなと。</p>

中央公民館運営審議会会議概要

中央公民館
18 枚中 11 枚目

井上委員	<p>質問ですが、先ほど言った、フリースペースに勉強しに来る子がいるということが増えることも一つの成果ということであげられるものなのですか。</p>
中央 浅間館長	<p>私どもといたしましては、テーマがぼやけていたところもあるかと思いますが、事業にも来てもらいたいし、いわゆる来館も若い人たちが少ないので、それぞれのほうで増えていけばと思っていたところでした。</p>
井上委員	<p>今、私の職場のシネウインドでは、高校生がボランティアで来てくれているのです。話すだけで参考になるかどうか分かりませんが、明鏡高校との契約は単位をあげるという契約でやっています。30 回出れば 1 単位ということで、2 人来てくれています。1 人はバイトをしたことがないので、人と接することがないから不安だといって、ここからだったらできるかなといって来てくれています。もう一人の子も、まだ 16 歳になったばかりの子で、社会との接点が不安だからということで、やってくれているのはコピーを取りにいたり、お客様に配るものを折り込んだりといった作業ですけれども、ここ 10 回くらいやってかなり自信にはなっているようで、笑顔も増えてきていますし、自分から話す機会も増えてきている気がします。こういったことが公民館で可能かどうか分かりませんが、公民館の作業、あるいは実務補助として高校生に来てもらうようなことができれば公民館を知るきっかけになると思いますし、ある意味、今の私から見ると高校生は割りと保守的というか、公民館にとっても信頼があるというか、安心できるというきっかけがあると思うので、公民館に来るきっかけを提案することも手かと思いました。</p>
岩崎議長	<p>私のかかわっているある NPO 法人ですと大学生スタッフ、高校生スタッフという枠組みをこしらえて、それこそボランティアであったり、あるいはインターンシップという側面もあるのですけれども、社会という大海原に出る一歩手前で、少し社会体験の代わりに自分のできることをやってみませんかというような触れ込みで集めているのです。そうすると最初は左も右も分からないという感じでどぎまぎしているのですけれども、だんだんなじんでくるとどんどんアイデアが出てきて、我々親父たちが想像もつかないようなことを言ったり、やったりするような場面も出てくるので、そんな高校生スタッフのような枠組みができるとおもしろいかなと、今のお話を伺っていて、関連して思いました。いかがでしょうか。</p>
西脇委員	<p>不特定多数の若者をどのようにして呼び込むかは一番面倒なことだと思います。ただ漠然としても絶対に集まらないと思います。やはり目的意識を持った人たちが集まるような手段を使っていくということになると、ある程度の根回</p>

中央公民館運営審議会会議概要

中央公民館
18 枚中 12 枚目

	<p>しは必要ではないかと思います。そうした場合に、こんな広いところで、ただどうしたら集まるかということよりも、公民館も出前を積極的にしますよということを基本方針でも訴えているわけですから、どこかそれこそ近くの高校でも、一つのクラスでもいいから、お話し合いを少しでも持たせてもらうような時間を取って、公民館に対する若者の考え方とか、そういう現状把握をまずしなければ、何か雲をつかむようなお話ではないかという感じを受けます。色々な良いアイデアを出し合いながら、若者のニーズに合った講演とか、楽しい音楽祭など、企画やテーマを絞って開催したら、若者が出てくるのではないかと思います。その辺の下ごしらえがもう少しいるのではないかと考えます。</p>
<p>本間委員</p>	<p>生徒会が意外と窓口になったりします。各中学校の校長先生にお願いをして、生徒会の執行部の子どもたちに意見を伺うというところから始めても面白そうかなと、お話を伺っていました。</p> <p>新潟市内の生徒会の会長、副会長が年 1 回一堂に会する機会がある。中学校教育研究会の「生徒会活動部」。そこに議題としてお願いをすれば、可能なことであると思う。この会は毎年 12 月頃、冬休みに入っすぐあたりに、市内の生徒会幹部が一堂に介して半日日程行う。これを利用すれば中学校はできると思うが、高校はどうか分かりません。</p>
<p>田代委員</p>	<p>うちにも孫がいて高校生ですが、見ているとすごく忙しい。だから、公民館に行く時間がまず取れないのではないかと思います。そして、高校の場合は、小学校、中学校は学校区があって、うちからみんな同じところに通っていますけれども、高校になるとみんなさまざまな地区から通学していますから違うわけですね。だから、所在地の高校の公民館がやるのか。例えば、中央公民館であれば、この近くの学校区にある高校はどこですか。ないのではないですか。</p>
<p>西脇委員</p>	<p>高校生でなくてもいいと思うのです。中 3 は今度高校に行くわけですから、中学生くらいからでも。</p>
<p>田代委員</p>	<p>いいのだけれども、高校というある学校をイメージして、ターゲットにしたとしても、そこに来る生徒たちは、みんなほかの地域から通学してくるからうちへ帰るわけです。うちへ帰る間にもう時間がなくなるから、どこで捉まえるのかということもあるし、それから高校生は何に興味があるのかと。私も聞いたことがないから分からないけれども、興味のあるものにしか反応しないのだから、そこをリサーチというか、聞いてみて、何に興味があるのかと。興味があることは夜でも、遅くても、何かしゃべり声がしているから、だれとしゃべっているのだと思えば、電話でこうやっているわけだ。というような生活スタ</p>

中央公民館運営審議会会議概要

中央公民館
18 枚中 13 枚目

	<p>イルだから、何かに興味は持っているのだろうと思うので、それを公民館が吸収して、例えば事業としてやるのか、あるいはここにあるように居場所と立ち寄りを各公民館でやっていますけれども、数によってだいぶ違いがありますよね。どういうカウントをされているかも分からないのだけれども。だから、その辺も実際、休みに来ている人たちに聞いてみるということから始めれば、少しは見えてくるのではないかと思います。</p> <p>話が少しずれるかもしれませんが、私は今、高校の先生方と研究所のつながりでお話を伺う機会がたくさん増えてきています。今度、新しいカリキュラムで総合的な学習の時間が、高校に関しては総合的な探求の時間に名称が変わり、地域にある課題を今まで以上に学校の教育の中で取り入れる学びが本格化していく。そのちょうど足音が聞こえてきているような局面にあります。伺うと、今までですと高校というのは全県一区で、どこが地域だかおっしゃるように分からないというような認識だったので、それでは学びが作れないので、やはり地域といえ物理的に立地している近隣だろうと考えたときに、高校側が逆に地域の窓口を求めている。求め始めてきているということにすごく強く感じています。どこから話を持っていったらいいかが分からないというのが、高校の先生方の本音のようですので、それこそ飛んで火に入るではないですけども、公民館のほうから高校にアプローチしていただくと、最初は先生を通じてという形なのかもしれないけれども、きっと生徒ともつながりが持てて、いろいろな多様な声が聞けるようになるのではないかと、お話を伺っていて、今、思い出しました。ありがとうございます。</p> <p>ほかにはいかがでしょうか。せっかくお機会ですので、まだご発言いただいていない委員の方からも、この件のみならず、全体を通してでもかまわないので、ご発言をいただければと思うのですが、小林委員から回らせていただいてもいいですか。お願いします。</p>
岩崎議長	<p>話が少しずれるかもしれませんが、私は今、高校の先生方と研究所のつながりでお話を伺う機会がたくさん増えてきています。今度、新しいカリキュラムで総合的な学習の時間が、高校に関しては総合的な探求の時間に名称が変わり、地域にある課題を今まで以上に学校の教育の中で取り入れる学びが本格化していく。そのちょうど足音が聞こえてきているような局面にあります。伺うと、今までですと高校というのは全県一区で、どこが地域だかおっしゃるように分からないというような認識だったので、それでは学びが作れないので、やはり地域といえ物理的に立地している近隣だろうと考えたときに、高校側が逆に地域の窓口を求めている。求め始めてきているということにすごく強く感じています。どこから話を持っていったらいいかが分からないというのが、高校の先生方の本音のようですので、それこそ飛んで火に入るではないですけども、公民館のほうから高校にアプローチしていただくと、最初は先生を通じてという形なのかもしれないけれども、きっと生徒ともつながりが持てて、いろいろな多様な声が聞けるようになるのではないかと、お話を伺っていて、今、思い出しました。ありがとうございます。</p> <p>ほかにはいかがでしょうか。せっかくお機会ですので、まだご発言いただいていない委員の方からも、この件のみならず、全体を通してでもかまわないので、ご発言をいただければと思うのですが、小林委員から回らせていただいてもいいですか。お願いします。</p>
小林委員	<p>若者を取り込むというのは、なぜ取り込みたいのかということが、私は話を最初のほうはよく分かっていなくて、多分、数が少ないからということで、それを目的にしているわけですかね。</p>
中央 浅間館長	<p>公民館は人づくり、地域づくり、地域の課題を解決していくのは私たちの役割としてとても求められているところ。そうすると高校生にもこういった社会教育施設を利用していただいて、人材発掘、これからの地域づくりを担える人材を見つけて発掘していきたいという目的で、若い人からもご利用いただきたいと考えているところでございます。</p>

中央公民館運営審議会会議概要

中央公民館
18 枚中 14 枚目

<p>小林委員</p>	<p>基本施策の 4 あたりにということなのですよ。多分そうだとすれば、呼ぶということが目的というよりは、そこで交流する、させたいことが主なですよ。だとしたら、内容的なものは、今までお話が出ていたとおり、私たちだけでは限界があるのかもしれないのですけれども、基本的に二つ思ったことがあって、一つは、公民館は何する場所か分からないというアンケート結果が先ほどあったということですから、公民館で何ができるということをそういう対象の人たちにきちんと PR できているのか。その方法は今までどうしてきたのか。もしかしたら効果的な方法があったのかもしれない。もう一つは、青年を対象にした講座を設けなければ来ないのではないかと。中央公民館は、昨年度三つ立ち上げて、19 人とか、けっこう来ていますよね。他の公民館は、それはやっていない。やっていなければ来ないだろうと思ったのです。だから PR の方法と講座の開設あたりが大事なのかと思いました。</p>
<p>岩崎議長</p>	<p>ありがとうございます。もし、よろしければ田代委員、一言ございますか。</p>
<p>田代委員</p>	<p>なぜ高校生というのが突然出てきたのか、分かりませんが、やはり高校生の前は中学生で、その前は小学生だったはずなのです。だから、公民館というイメージを持たせるのであれば、今、親子劇場とかいろいろやっているけれども、そういうときや、小学生や中学生のときに公民館を利用してもらえば、別に高校生でなくてもいいのではないかと。また、社会に出て忘れたころ、年を取ったら、ああ公民館があったなと里帰りしてもいいのではないかとはいっています。</p>
<p>岩崎議長</p>	<p>ありがとうございました。続けてお願いいたします。</p>
<p>祝委員</p>	<p>私達は今、関屋で漢詩研究会というものをやっているのですが、会員の減少に悩んでいます。現在の会員の年齢は全員 70 歳以上です。新しい若いメンバーを入れないと立ち行かなくなります。若いといっても 50～60 代の人が見学に来てしばらく勉強しますがなかなか続きません。途中で辞めてしまいます。関屋地区で「せきやの灯 (ひ)」という年一回発行の広報誌があります。そこで関屋の中学生に漢詩を知ってもらおう講座を企画し、ゆくゆくは会員増につなげるつもりでしたが実現しませんでした。再度企画したいと思っています。中学、高校では美術や音楽等はクラブ活動で充分勉強できますが、漢詩のクラブは無いのでは・・・その意味で良いターゲットになるのではと思っています。現在の講師は日本の漢詩界でも屈指の実力を持つ先生です。若い人材に加入してもらいたいと思います。</p>

中央公民館運営審議会会議概要

中央公民館
18 枚中 15 枚目

岩崎議長	<p>ありがとうございました。渡辺委員お願いします。</p>
渡辺委員	<p>私も、本間先生が言われたことはもっともだと思いますし、そうだなとも思います。</p> <p>一つお聞きしたいのが、各公民館で、「お寺でゴーン！」ですとか、青少年の夏休みのイベントがありますが、そういったものはだれが主体で動かしていますか？公民館職員だけでやっているのか、それとも他の方がお手伝いをされているのかということをお聞きしたいのですが。</p>
中央 友坂事業担当	<p>中央公民館の子ども体験事業については、ほぼ公民館主体でやっています。子ども対象の宿泊事業、それこそ「お寺でゴーン！」だったり、避難所宿泊体験事業とかやっていますが、それについては地域の方や、小学校のコーディネーターのご協力をいただいて、地域と一緒にやってきているような現状です。</p>
渡辺委員	<p>そういったところに中学生や高校生、大学生にお手伝いをお願いして、一緒にやると。その中で、次、あなたたち、どういうものをやりたいということ聞きながら、大人だけがやるのではなくて、同じ地域の中学生、高校生、大学生に学校を通してでも、こういうものをやりたいのだけれどもお手伝いしてくれる人とか、もう少し上の子供たちがかかわってやることで、ああ楽しいなど。自分たちはこういうものがあつたらいいなというつながりができてくればいいのかなど。大人が全部やるのではなく、そこからきっかけになればいいのではないかと思います。私も公民館の活動を西区のほうでやっていたのですけれども、西区の宿泊や体験のときは、フリースペースに来てくださっている大学生の皆さんがお手伝いをしてくださって、その代わりまた違う企画で大学生でパーティーしようよとか、高校生でパーティーしようよということで、公民館の調理室で調理したりとか、いろいろな活動がありましたので、小学生とか、中学生の体験に学生を呼び込むのも一つの方法ではないのかと思いました。</p>
岩崎議長	<p>ありがとうございました。本間委員お願いします。</p>
本間委員	<p>いっぱいしゃべりましたのでありません。</p>
岩崎議長	<p>本間委員からの話でどんどん膨らませて進めることができました。ありがたいと思います。ぜひ高校生、中学生に意見を聞くという場面を作っていただければと思います。西脇委員お願いします。よろしいですか。</p>
西脇委員	<p>ありますけれども、今、言ったら時間が。</p>

中央公民館運営審議会会議概要

中央公民館
18 枚中 16 枚目

岩崎議長	ご協力に感謝します。塩田委員お願いします。
塩田委員	私も仕事をしていたり、いろいろ家事をしたりしているとなかなか時間がなくて、公民館ですばらしい企画で事業をたくさんしているのですが、実際、私はほとんど参加できないという感じで、自分のことを考えても、仕事をしている世代の方が公民館を使うのは難しいのだろうとも思います。また、公民館それぞれの立地条件があって、全部が全部、若い人たちを呼び込めるというような条件にはないと思うので、やはり全部が全部ではなくて、この館は若者を集めるのを一生懸命やりましょうよとか、公民館も全部背負わなくてもいいと思うのです。それぞれの館に合った人の集め方をしていくのがいいのかと思います。予算的にあれば、無料W i - F i が使えますというと、いっぱい人が来るかなという思いがいたしました。
岩崎議長	ありがとうございました。笠原委員お願いします。
笠原委員	私、日和山小学校のコーディネーターをしています。先ほど、渡辺委員から「お寺でゴーン！」はどのようにやっていますかという質問があったので、日和山小学校の小島さんというもう一人のコーディネーターと 2 人でやっているのですが、中央公民館の「お寺でゴーン！」の企画は、もともとは地域が発祥で、今はこのように広がったと聞いています。私も毎回、ボランティアとして参加していますが、前は一つの学校から集まっていましたが、今は四つの学校に募集をかけています。子供たちが宿泊するので安全面も全部分かっているベテランの人をお願いして、その他に公民館が呼んでくださった別の方たちと協力をして、宿泊体験をしています。私は今年度のことを確認はしていませんが、例年、体験の 2 日目に小学生が地域の各所を見学する時間があります。去年は柳都中学の生徒が総合学習で、英語を使って地域を案内するという企画がありました。それを私もお手伝いしたいのですが、今年は英語かどうかは分かりませんが、地域の名所を中学生が小学生に案内するというのを盛り込んだのでしょうか。
中央 友坂事業担当	今年も予定しております。
笠原委員	今年もそのようにしていただけるということで、場所は外でも公民館事業に学生がかかわることもできると思います。もう一つは、小学校のクラブ活動に、ダンスの専門学校生が 15 名くらいでしょうか、ボランティアでダンスを教えに

中央公民館運営審議会会議概要

中央公民館
18枚中 17枚目

	<p>来てくださっています。こちらはお金は何も出せないのですが、学生にとっては、先ほど、井上さんも言っていたように、専門学校でそれが単位になるという事で教えてもらっているのです、そういうことも公民館で一つの何か、どういう形でできるのか分かりませんが、若い人に足を運んでもらうとか、触れさせるといのも、方法の一つかなと思って聞いておりました。</p>
岩崎議長	<p>ありがとうございました。井部委員お願いします。</p>
井部委員	<p>私は親子劇場ということで、いろいろな年齢の人が集まって活動しているのですが、この資料が届いて、若い人たちが公民館を利用するにはどうすればいいかということ、みんなに会う機会があったので聞いてみたのですが、子供たちは、割りと親は行っているよねと。親子劇場の子供たちの会議をしたり、ここでお芝居を観る機会があったり、そういうことで割りと来ている子供が多かったので、ぼくたち利用しているよね、親子劇場の活動が活発になって仲間が増えていく、親子で公民館を利用する若い人たちが増えるよねという子供たちの声や大人の声がありました。どなたでも入っていただける会ですし、皆さんいろいろな会があると思うのですが、そのような活動が活発になって、ここを利用するということが、人が増えていくということかな、という声がありました。そして、若い人の利用も、数字を見ると少ないですが、幼児層も少ないと感じました。若いお母さん、親子劇場のお母さんたちからも、意外に幼児もあまり公民館に足を運んでいる人が少ないという声がありました。</p>
岩崎議長	<p>貸し館のところで利用している高校生も多いのではないかとご指摘も含めてのことかと思いました。最後に井上委員からもう一言ご発言いただいて、副議長にバトンタッチしたいと思います。井上委員、もし最後ありましたら。</p>
井上委員	<p>新潟市内の高等学校によっては、多分、ボランティアサークルみたいな活動があったりもすると思いました。具体的な高校はあげられませんが、そういうところにアプローチするとか、先ほど言ったような公民館事業で学生からサポートしてもらおうというのも参考になるかと思いました。また岩崎先生のお話にあったように、学校が求めているところもあるような気がします。地域ごとの公民館によって、近い高校などもあるでしょうから、自分でアプローチされたらいいかなと思いました。あとは高校そのものの活動についても関心を持っていいかなと思いました。ここからまたヒントがあるかもしれませんので、サークルで会ったり、学校としての特色から何かつながるきっかけがあると思いますので、決定打はないと思いますが、いろいろなことをやりながら徐々に増えていくことが理想かと思いました。</p>

中央公民館運営審議会会議概要

中央公民館
18 枚中 18 枚目

岩崎議長	ありがとうございました。山田副議長、お願いします。
山田委員	<p>高校生というのが、卒業すると県外に出てしまう子が大変多いのではないかと。でも、公民館の事業として高校生をターゲットにするのであれば、大学を卒業したらふるさとに戻ってくるぞとか、結婚したらふるさとに帰って暮らそうというように強く思ってくれるきっかけづくりを公民館が担ってくれるといいのかと願っています。それと、子供たちを事業としても、居場所としてでも、どう集めるかという視点で事業を組み立てるということも一つあるかと思いますが、逆に必要課題を提示して、それによって若者自身で学んで考えてもらうというきっかけを作っていくことも、公民館として、社会教育の機関として必要なことではないかなと思います。今、気になっているのは、18 歳成人という問題が目の前に迫っているのです。それについては、当然、いろいろなところで何らかの動きがあるかもしれませんが、子供たち自らの課題としてどうとらえていくのか、何が問題なのかということを考えてもらうために、ぜひ中央公民館から中央区の公民館ということではなくて、新潟市の代表公民館という中で取り組むことはできないだろうか、高校や専門学校や大学や該当する年代にかかわる学校というのは数多いはずですので、もし可能であれば、そういう取り組みができないだろうかと思っています。</p>
岩崎議長	<p>ありがとうございました。時間がもう押していますので、コメントを求めることはしないようにしたいと思いますけれども、委員から出たいろいろなご意見をぜひ事業の中に反映していただくとありがたいなというまとめにさせていただきます。ありがとうございました。</p> <p>議長を退任いたします。ありがとうございました。</p>
中央 竹田館長補佐	本日は、活発なご議論、どうもありがとうございました。以上をもちまして、第 30 期第 3 回中央公民館運営審議会を終了いたします。大変お疲れさまでございました。ありがとうございました。